

新会長、思いを語る。

平成28年4月17日、横須賀市青少年会館で、第6期青少年育成推進員委嘱式、および育成推進員連絡協議会の平成28年度総会が行われました。冒頭、吉田市長から、ごあいさつがありました。総会では役員の改選が行われ、織田会長をはじめとする新体制が承認され、事業計画、予算案が可決されました。

新体制発足から3か月後の7月14日、新会長の織田俊美さんに、会長としての思いを語っていただきました。

―推進員の前身である指導員・相談員の経験は？

指導員も相談員も経験していません。推進員からなので、非行防止も健全育成も両方をセットですることが、スタートです。

P T Aの会長をやっているときに今とは逆の立場で対応したことがあったので、内容的には分かっています。

初めの1期2年目の時は、出席率が半分くらいでした。この時拾ってくる人がいなかったら、たぶん面白味もわからないままスーッと退場だったかも(笑)。

環境部会長をやることによって、普通の部会員よりもよく勉強するようにになり、それが結果的には面白味に繋がってきたのだと思います。食わず嫌いの人がいるけど、食べてみたら美味しいっていうのと同じようにね。

―育成推進員は年齢層が高いが青少年とのギャップを埋めるにはどうしたら？

子どもの立場から大人の世界に入っていくのは、ものすごく難しいと思います。大人は子どもの時代を通じてきたから、逆に大人が子どもに近づいていくべきだと思います。

大人が子どもと話をするときには、子どもの目線になるのは大事。もしLINEで悩んでいるなら、大人がLINEを覚えるとかして、子どもに近づいていく。そうすると子どもとの共有する部分をお互い話し合える環境ができてくるんじゃないかなという気がします。教えるとかいう形だと子どもは反発しちゃうからね。

―会長になって3か月ですが感じたことは？

県の会議に出席して、推進員(県では指導員ですが)の定数に満たない市があるということを知りました。横須賀市も160名のところ現在152名。その中でも活動に消極的な方が、一部いるように思います。現在の選出の仕方だと今後他市のようになってしまうのではないかと感じます。町内会へ人選についての働きかけをしてもいいのかなとも感じています。

また、協議会の会議については会議のテーマ(材料)がないときが、不安の種、悩みどころです。何かのテーマを投げかけてそれに対して皆さんの意見を聞いて、結論は出なくても、問題意識とか問題提起とかしてもらえれば、いずれ一つの形が見えてくるという期待感が持てると思います。

―今後の協議会をどのようにしていきたいですか？

青少年相談員と指導員が発展的に統合をして丸10年経ち、11年目に向かって新しい流れができていけばいいかなと。

今までの10年を一つのくくりとして、新たな体制を作っていく中で、何ができるのか、何をしたいかなければならないのかを、改めて一から見直していきたい。そういった意味で規約の改正に取り組んでいきたいと思えます。



平成28年度
青少年育成推進員連絡協議会役員

- 会長 織田俊美
- 副会長 井上浩文・栗原恵子
- 庶務 矢口さをり・大庭辰晃
- 会計 小川輝夫・鈴木和子
- 監査 芦澤雄一・遠藤俊義
- 育成部会長 木藤ひろみ
- 環境部会長 佐々木教之
- 研修部会長 中尾洋子
- 広報部会長 岡田安司



久里浜中学校区 活動報告
(サイエンスショー)
 平成28年3月19日(土)

今回は、理化学実験教室アインシュタインラボにお願いし、久里浜中学校体育館で「サイエンスショー」を行いました。

当日はどしゃぶり、大荒れの天候になってしまいましたが、それでも小中学生、保護者、先生方にもご参加いただき、70名程になりました。

さて、どんなことが始まるのかと興味津々の中、白衣姿で実験教室の方たちが登場し、まずは、光はどんな色?のお話から始まりました。回析格子(かいせつこうし)と言われる1cm平方の小さな透明板を通して体育館のライトを見上げた瞬間、ワァーと歓声。全員が虹色のレーザー光を見ました。

次に現れたのは、秘密のパイプと称するもの。超低温の液体の中に入れると雲のごとく天井をおおいかくす程に、モクモクと白い煙が広がりました。実はそれは細かい氷の粒。パイプの向きが変わって煙がかかると、子どもたちは冷えて冷えて体験することになりました。

そんな中、実験教室の先生が難しい質問を投げかけると、中学校科学部の生徒たちが名答する場面もあり、さすがの一言でした。きらきらふわふわと大人も楽しんだひとときでした。

(五井 直子)

Information

とき 10月30日(日)
 ところ 県立保健福祉大学



真っ暗なステージ。舞台袖でのドキドキ。ママの手作り衣装に身を包んで出番を待つ。大丈夫、今日まで一生懸命練習してきたからね。音楽がかかりパアッと明るくなったステージに踊り出る。僕たち、私たちの演技を拍手で迎えてくれる客席のみんな。講堂の外では、楽しそうなお店が、たくさん並んでいる。何して遊ぼうかな、何を食べようかな。こんな楽しい一日を子どもたちと共に創り上げる。それがわんぱくフェスティバルです。スタッフとして参加するもよし、お客様として楽しんでいただくもよし。協議会としての全体イベントと一緒に盛り上げていきましょう! 子どもたちが横須賀に生まれ育って良かったと思える楽しい一日になりますように!

(わんぱくフェスティバル実行委員会 木藤 ひろみ)

第11回 中学校対抗
 ウォークラリー大会

今年度は横須賀西部地区の武山が舞台。武中から山道を通って山頂を目指し、クイズ、ゲーム等楽しみながら、武中に戻るコースです。



「あなたの住む三浦半島を山頂から眺めましょう!」緑豊かな山道、西地区の自然と歴史を満喫出来るウォークラリーを楽しんでください!
 (育成研究部会 二宮 嘉之)



「ありがとうございます、お疲れさま」などと言葉を返してくださる方もおり、おかげで疲れも吹き飛び、成功のうちにキャンペーンが終了しました。

なかでも腰を屈め、おばあちゃんを目線の高さに合わせて声をかける警察官の姿に感動し、見習うべきものを感じました。

今回の活動で、少しでも多くの方に関心を持っていただき、非行防止につながればと思います。

(岩村 通子)

アクアン(上下水道局のキャラクター)の着ぐるみを着た男子生徒は、汗びっしょりになりながら頑張ってくれました。小さい子どもや外国の人などが一緒に写真を撮ったり、触ったりと大好評。その甲斐もあり、配布は予定よりも早く終わりました。

初めは恥ずかしがって小さな声しか出なかった中学生も、徐々に慣れてきて、だんだん大きな声で「青少年非行防止キャンペーンを」行っており。協力ください」と呼びかけていました。このキャンペーンで良い経験ができたのではないのでしょうか。

(杉山 伊久雄)



一昨年は雨、去年は突風でしたが、今年は天候に恵まれました。中学生15名、小中学校関係者、地域連絡会のメンバーなど計52名が、駅前、芸術劇場付近、歩道橋下の3か所に分かれ、チラシ、風船、ティッシュを配りました。

非行被害防止キャンペーンが始まるよ!
 常葉、不入斗、大津の中学生、先生、青少年育成推進員で総勢52人が集まって、みんなで街を行く人々にチラシとティッシュを配っているよ。

あちらの中学生は少し不安そうな表情でチラシを差し出したよ。受け取ってもらえて嬉しそうだね!こちらでは声でキャンペーンを呼び掛けているよ。頑張ってるね!

だんだん、差し出す手も伸びてきて、呼び掛けの声も大きくなってきたよ。その調子!

忙しそうに通りすぎていく人も、受け取ってチラシを見てくれている。読んで少しでも非行や被害にあう人が減ってくれたら、嬉しいなあ

(松元 陽子)



7月は青少年の
 非行・被害防止全国強調月間
 パネル展示で啓発活動



キャンペーンでは声かけとともに、その趣旨を伝えるチラシやティッシュを手渡しました。受け取った人たちも、言葉をかけてくれました。着ぐるみを見つけた子どもたちは駆け寄って大はしゃぎ、ハイタッチやハグをしていました。そんなうれしそうな姿に、大人たちもつられて笑顔になりました。

(小川 輝夫)

今年は灼熱の中と思いきや、梅雨が明け止まぬ過ごしやすい風吹く中、73名の参加で行われました。追浜高校定時制と横浜創学館の高校生、追浜・鷹取中学校の生徒が中心的役割を果たしてくれて、また着ぐるみのウサギさんとオックリン(クリーン追浜のキャラクター)も一役を担ってくれました。

駅前では、電車の乗降客の中で若者がポケモンGOに熱中、歩きスマホをしていたので、非行被害に遭わないよう注意を促しました。



追浜駅周辺 7月23日16時
 追浜・鷹取中学校区

馬堀海岸駅周辺 7月16日11時
 馬堀中学校区

汐入駅周辺 7月23日11時
 坂本中学校区

横須賀中央駅周辺 7月10日16時
 不入斗・常葉・大津中学校区

本市では私たち連絡協議会を中心に関係機関・団体のみならず地域の方々との参加協力を得て、市内4か所で非行防止キャンペーンを展開し、特にインターネットを通じた非行及び犯罪被害防止を重点に呼びかけをしてまいりました。

非行防止キャンペーン

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です

新任者研修会



新任者研修会の様子

5月28・29日 青少年会館
青少年育成推進員制度が11年目を迎え、第6期の新任者研修会が行われ、参加者から、次のような感想をいただきました。

- 連絡協議会や推進員の立ち位置について全体像がつかめた。
- 活動の詳細、活動を青少年育成にどう生かすのかわからない。今後の研修会に生かせればと思います。（広報研究部会）

どんどん進む少子化の波。横須賀も例外ではありません。そんな中ですが、子育てにとっても良い街だと、私は感じます。自然が残され、近隣とのつながりがあり、国際豊かな横須賀。いつも街中に子どもたちの笑い声が絶えないよう、お手伝いできればと思います。（ジャクソン 悠）

横須賀三浦地域

青少年指導員研究会

6月19日 横須賀合同庁舎
本研究会は、地域活動への二一

ズが多様化する中、活動に携わる指導者として「指導・支援」技術を身につけることを目的に、開催されています。
今回は、横須賀・三浦・鎌倉・逗子の4市と葉山町から40名、本市から16名が参加し、NPO法人体験学習研究会、教育手法研究者二宮孝氏をお招きして開催されました。

研修では「アドベンチャーゲームの力で仲間づくり」をテーマに、①安心してその場にいられる、②みんなの距離が近い、③話合いが活発に進む、④協力し合える雰囲気を作り出すのに役立つ「仲間づくりのゲーム」を体験しました。



最初はボードにメモを貼りながらの講義でしたが、それからが大変。見知らぬ同士がグループを作り、声を掛け合い、幼稚園さながらのゲームで沸きました。講師の二宮先生の言葉と共に、日常ではなかなか得られない体験ができ、童心に戻って心が真っ直ぐになった気分です。

日々の生活で、人との関わりや

ふれあいが少なくなり、あいさつもままならない場面があると思います。この体験と得られた手法を、地域の活動に活かしていきたいと思っています。（吉崎 勉）

平成28年度

青少年の健全育成を

進める県民大会

7月8日 横須賀市文化会館
「社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり」をテーマに、県民大会が開催されました。

初めに、横須賀学院中・高等部ハンドベル・クワイアの皆さんによる演奏が行われ、清らかな音色が、会の始まりにふさわしい彩りを添えました。

開会宣言に続いて、藤川大祐千葉大学教授による講演「情報化社会を生きる青少年のために（青少年のインターネット利用状況と課題）」がありました。問題点として①利用時間の長時間化、②ネットいじめ、③犯罪被害などが指摘されました。

最後に、パネルディスカッションが行われました。トラブルに対する心構え、地域や家庭で見守ること、家庭でのルール作りについて話し合われ、情報化社会での身の守り方を考える良い機会となりました。（山本 光）

ゆうやけにやけ

ある日「自然流の庭を作ろう」と思い立った。引越し当時から荒地となった。我が家の北側の建物と敷地境界の間の細長い場所に。そう一念発起してからは、汗だくになって固まった土を掘り起こし、花の苗を植栽した。

翌年、苗はぐんぐん成長し、次々と花を咲かせ、そこはあつという間に思い描いていた理想の庭となった。

ところが、その夏、無残にも草花はなぎ倒され、カエデの苗木一本だけ残された、穴だらけの姿に変わり果てた。涼を求めた我が家の真つ黒な大型犬が掘り返してしまったのだ。

すっかり落胆し、あきらめの気持ちでいた次の夏、ふと気付くと、風が運んだのか、野草の種が根付き、色とりどりの草花が「自然流の庭」を作り上げていた。その美しい自然の術は、私の心を魅了し、笑顔を運んできてくれた。ああ、自然にはかなわないと深呼吸すると、張りつめていた肩の力も心地よく抜けていった。（Y.J.）

編集後記 21号には新しい取り組みがある。新任の方にはいきなり取材と記事をお願いした。紙面構成をページごとと違う方をお願いした。大丈夫だろうか、上手くまとまるだろうか。そんな心配は、まったく必要なかった。読みやすい文章、楽しい紙面。皆さんも感じていただけたと思う。（Y.O.）